

第 6 回芸術文化祭「自遊展」開催

6年目を迎えた大分支部の芸術文化祭が、100周年記念イベントとしてコロナにめげず、感染防止に配慮しながら、多くの出品者、出演者の皆様に支えられて開催され、盛会裏に修了しました。

大分の歌音楽祭

第一弾として、前回から取り組みをはじめた“大分の歌音楽祭”が10月17日に大分市府内町の「祝祭の広場」で開催されました。午前10時30分から午後3時30分まで、経済学部社会イノベーション学科渡邊ゼミの学生が企画・運営してくれました。圧巻は大分大学の学生グループ「獲天」60名による“よさこいパフォーマンス”で、迫力といい統制の取れた力強い踊りといい、会場が熱気で覆われました。来場者数242名。

展示会

第2弾はいつもの会員が趣味の成果を持ち寄った芸術文化作品展示会で、10月26日～11月1日の1週間、大分市荷揚町のアートプラザで開催されました。来場者495名。

日本画、洋画、水墨画、写真、川柳、短歌、俳句、能面、陶芸、書籍、映像の各ジャンルに39名の卒業生と写真部の学生5名が102点の力作を披露しました。

(特別上映会も)

今回の新しい取組として、会期中の30日、31日には会場の一角で特別上映会も開きました。自遊展副代表幹事の尾登憲治さんが編集した映像作品で、30日に上映したのは「山こそ人生」。令和2年7月に亡くなった登山ショップ「山溪」の元社長、伊東亨さんは、日本未踏峰クラブを設立して81回中国&チベットに通ったという全国にファンをもつ登山家でした。平成22年にチベットの未踏峰ダ・カンリ6,247mに遠征した時のドキュメンタリー映画を尾登さんが制作されました。上映会には県外を中心に約60名の登山愛好家が集まりました。映画鑑賞後はたくさんの方々が伊藤さんとの思い出を語られました。

続く31日の上映は、昭和40年に大分初の海外遠征登山隊が中部ヒンズークシ山脈コー・イ・モンディ峰に登頂した時の8ミリフィルムを再編集した映像です。当時、大分大学の学生として参加した加藤英彦さんが解説し、約30名が観賞しました。

(お部屋ラボ祝祭の広場における大分の歌音楽祭)



(展示会の出品作品…絵画&写真)







